

## 平成 26 年度第 2 回富山県環境審議会水環境専門部会 議事概要

### 1 日時

平成 26 年 10 月 15 日（水）午後 2 時～3 時 40 分

### 2 場所

富山県総合福祉会館 701 研修室

### 3 出席者

委員：楠井専門部会長、加賀谷委員、小口特別委員（代理：二俣富山河川国道事務所副所長）、田口専門員、千葉専門員、陶野専門員、藤縄専門員

事務局：熊谷生活環境文化部次長、藤平蔵環境保全課長、佐野水質保全係長、野村主任ほか

### 4 内容

議事

富山県水質環境計画（クリーンウォーター計画）の改定について

### 5 主な意見、質疑応答

[委員等] 「とやま川の見守り隊」について、活動の対象は川に限定しているのか。あるいは、ほかにも対象を広げていくのか。

[事務局] まずは住民にとって身近な水辺である「川」に関心を持ってもらう観点から、「とやま川の見守り隊」としてスタートしたものである。「とやま川の見守り隊」の隊員には、指導的な立場で地域の子どもたちなどとともに水環境保全活動に取り組んでいる皆さんに、登録いただいているところである。今後は、「山、川、海」のつながりを意識しながら活動を進めるため、「川」以外にも対象を広げていきたいと考えている。また隊員の人数も増やしてまいりたいと考えている。

なお、計画の改定にあたっては、具体的な数値目標として、水質については、県の総合計画の指標を踏まえて①水質環境基準達成率を設定するとともに、県民による水環境保全活動の実施状況については②とやま川の見守り隊の隊員数を掲げてまいりたいと考えている。

[委員等] 海岸漂着物対策にも取り組む必要があるのではないかと。

[事務局] 基本的には、別に定めている海岸漂着物対策推進計画に基づき対策を講じていくことになる。一方、県内の河川を通じて海域に流出したものが県内の海岸に漂着している状況が見られることから、これらの海岸漂着物の発生源となっている河川で

の対策の一つとして、「とやま川の見守り隊」の活動を通じて、清掃活動やポイ捨て防止の啓発に取り組んでまいりたいと考えている。

[委員等] 単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換について、単独処理浄化槽が多数残っているのは主に中山間地などの過疎地と考えられ、合併処理浄化槽を新たに導入することは難しいのではないか。

[事務局] 中山間地では、下水道の整備には多額の費用を要し、効率的ではないと考えられることから、下水処理場と同等の機能を有する合併処理浄化槽の導入を進めるため、従来から国（環境省）・県・市町村で補助制度を設けている。それでも、単独処理浄化槽が多数残されていることから、課題として位置付けたものである。

[委員等] 県民及び事業者の役割に「身近な水環境のすばらしさの情報発信」を追加しているが、行政としても情報発信していく必要があるのではないか。

[事務局] 今後、水環境の適切な活用も進めていく観点でも、県内外に水環境の魅力をPRしていくことも重要であることから、ご指摘どおり、行政の役割としても情報発信を位置付けたい。

[委員等] 直ちに対応することは難しいかもしれないが、今後、行政からの一方向の情報発信、普及啓発だけではなく、行政と県民との双方向での意思疎通の観点を取り入れてはどうか。

[事務局] 各主体とも双方向で連携していく必要性については認識していると思われるが、具体的な取組みについては試行錯誤しているところである。まずは、行政と住民との連携協力が重要と考えており、その一歩として、「とやま川の見守り隊」の活動を中心に、県民との協働や住民参加の取組みを強化してまいりたい。

また、今後は、水環境の適切な利活用の視点を取り入れてまいりたいと考えており、例えば、これまであまり利活用されていなかった名水などを適切に利活用していくにあたり、行政と県民が意思疎通を図りながら取り組んでいくことが重要と考えており、その手法を検討してまいりたい。

[委員等] 水質汚濁事故の未然防止のために、どのような人材育成を考えているのか。

[事務局] 事業者の意見を聴きながら進めてまいりたいと考えているが、特に団塊の世代の大量退職が進んでいることから、若手の作業員への熟練者の技術の伝承という点で支援できないかと考えている。また、最近では、管理室の制御画面での操作が多くなり、その操作により現場が実際にどのような状況になっているのかとの認識が希薄になってきている面もあることから、現場の感覚を身に付けることも重要と考えている。

[委員等] 廃棄物の管理型最終処分場の汚水対策は大丈夫か。全国的には、古い最終処分場で十分に対策がなされず、地下水汚染にいたる事例が見られる。

[事務局] 県と富山市では、県内 75 地点で地下水質を監視しており、特に問題は見られない。また、最終処分場の廃止の際には、地下水質に異常がないことを確認すること

になっている。

[委員等] 調査研究の推進について、「試験研究機関相互の連携」とは、どのようなことを想定しているのか。特に海域の水質データについては、各研究機関がそれぞれ有用なデータを保有しているので、連携をしっかりと行ってもらいたい。

[事務局] ご指摘とおり、今後とも、各研究機関との連携にしっかりと取り組んでまいりたい。

[委員等] 計画の進捗状況について、県民に分かりやすくPRすべきではないか。

[事務局] 経済団体や関係機関で構成される富山県水質環境計画推進協議会では、施策の実施状況などの進捗状況について情報提供しているが、ご指摘の県民に分かりやすくPRすることについても、今後しっかりと検討してまいりたい。

[委員等] 計画の期間については、行政でしっかりと検討されるべきと考える。

○ クリーンウォーター計画の改定骨子案については、一部修正のうえ、了承された。

なお、計画の改定案については、専門部会長の下、事務局で改定骨子に基づき作成し、委員に個別に確認のうえ、県民意見募集（パブリックコメント）を実施することとされた。

以上、議事内容に相違ありません。

富山県環境審議会水環境専門部会長 楠井 隆史